好評連載中　女性薬局経営者4人が示す

Woman's Vision（ウーマンズ ヴィジョン）

「これからの薬剤師に大きな期待を込めて」～薬剤師歴50余年で感じること～

ファルメディコ代表取締役会長
一般社団法人日本在宅薬学会理事／薬剤師
狭間紀代

第5回 実体験からスタートした漢方との長い関わり

名医が診たてたわが子の体質

今回からは、総論を終えて各論を書かせていただきます。

連載第2期となるこれからの4回分は、私と漢方薬との関わりについてです。

薬科大学在学中、生薬の授業は、ほとんど頭に残っていません。

当時、同級生で仲良しだった生薬問屋の跡取り息子さんが、鑑定試験の際に生薬を全てかみ砕いて味わい、満点獲得だったことを面白く感じた記憶しか残っていないのが事実です。振り返ると、出来の悪い薬学生でした。

子どもたちが保育所に通っていた頃の話です。気温の少し下がる秋になると、長男の研至がせき込むようになりました。感染が気になり、保育所を休ませ、私も仕事を休まなくてはならない日が増えました。

その頃、暮らしていた千里ニュータウンの中でも評判の良かった小児科医を受診し、せき止め薬を飲ませても治まらず、顔色は蒼白になり、唇も真っ青、いつも活発でにぎやかな長男が静かな子どもに変身し、本当に慌てました。

せき止めのリン酸コデインの量が際立って多かったのでしょうか。恐ろしい気持ちになりました。

困り果てた末、高名だった漢方医の故・山本巌先生を頼ったのです。

祝日にもかかわらず快く応じてくださった山本先生は、長男を一目見るなり「この子は、叩いても死なん。アレルギー性気管支炎や。安心しなさい」と小柴胡湯合平夏厚朴湯を処方してくださいました。

ところが、その場にいた次男の洋至（※）に目をやるなり「この子の方を気にしないといけないのでしょうか。将来、体力が落ちたり、精神疾患か肝臓を患う要素を持っている」とおっしゃいました。

次男は、産まれた時からもの静かで泣きもせず、やんちゃもしない手のかからない子どもです。風邪すらひかない元気な子どもだと、思い込んでいましたので、それはそれは驚き「ええっ、先生ほんまですか」と叫んでしまいました。

すると山本先生は、次男を横にして脇腹をくすぐられたのです。「くすぐったい！」と悲鳴を上げながら笑う次男を見ながら「これが解毒症体質や」と説明され、柴胡清肝湯合補中益気湯を奨めてくださいました。

腺病質で肌色が褐色っぽい解毒症体質の子どもは、くすぐると異様なほどにくすぐったがりながら、声を上げて笑うのです。

中学時代の長男研至氏（左・瘀血症体質）と、次男洋至氏（解毒症体質）

苦しみ救った漢方薬

これが私と漢方薬のスタートです。幼児期のアレルギー性気管支炎の体質改善にかかる期間は、3カ月と学びました。

その日から48歳の今日まで長男は、風邪とは無縁の日々です。

しかし、瘀血（おけつ）症体質の長男は、幼児期から成長するにつれ、体力が増した分、アレルギー体質の症状が粘膜から皮膚表面へと移り、研修医時代に食事や生活のバランスが崩れたり、かなり疲れがたまったりすると、アトピー性皮膚炎が発症するようになりました。かなり重症のアトピー性皮膚炎の症状にまで陥ったのです。

当時、長男が勤めていた阪大医学部附属病院の皮膚科部長に診ていただくなどさまざまな経過をたどり、最後は漢方薬、サプリメント、アトピー性皮膚炎向けの化粧水（医薬部外品）でケアし、改善できました。

外科医の長男のこの時の苦しみは、本当につらかったであろうと思われます。

振り返ると漢方薬との出会いには、ただ感謝の気持ちが募ります。

併せてこの朗報を、病で悩み困っているあらゆる人たちに伝達したいと思うようになったことも事実です。

すごく調子が良かったり、リバウンドしたり、体調の良し悪しが長男のように皮膚に現れるという深い学びもしています。

次回は次男で経験した漢方薬のお話をいたします。

※狭間洋至氏＝現大阪警察病院糖尿代謝内科副部長（編集部注）

実感した漢方薬の効果と魅力

執筆陣
★狭間紀代氏
坂口眞弓氏（次回）
篠原 久仁子氏
佐野恒子氏

はざま・きよ●1965年京都薬科大学卒業、病院薬剤師として就職、67年結婚退職、69年長男・研至氏（ファルメディコ社長／日本在宅薬学会理事長）誕生、71年次男・洋至氏（大阪労災病院糖尿内科部長）誕生。産後、薬局勤務を経て、76年大阪市平野区でハザマ薬局本店を開設、2003年長男狭間研至氏が社長就任、04年法人化しファルメディコに名称変更